

「世界で最もイノベーションに適した国」づくりに向けて
 ～ 絶え間ないイノベーションの連鎖を生み出す ～

平成 25 年 12 月 17 日

青木 玲子
 内山田 竹志
 大西 隆
 久間 和生
 中西 宏明
 橋本 和仁
 原山 優子
 平野 俊夫

本格的な人口減少・少子高齢化社会を迎え、厳しい資源・エネルギー制約や国際経済環境が予想される中で、我が国の繁栄と持続的発展を実現させるには、科学技術イノベーションを機軸とした政策を強力に展開する以外に有効な方途はない。

安倍内閣は、こうした危機感を共有しながら、日本を「世界で最もイノベーションに適した国」へと変貌させることを決意し、本年6月に閣議決定した科学技術イノベーション総合戦略に基づく政策運営を進めてきた。特に、総合科学技術会議では司令塔機能として、政府全体の科学技術予算の予算戦略を主導する新たなメカニズムの推進と、府省・分野の枠を超えた横断型プログラムである「戦略的イノベーション創造プログラム」(SIP)や、産業・社会に大きなパラダイム転換をもたらすハイリスク・ハイインパクトな研究開発を推進する「革新的研究開発推進プログラム」(ImPACT)を構想し、現在、その実現に向けた取組を強力に進めている。

しかしながら、「世界で最もイノベーションに適した国」の実現に向けた動きを加速し、実効性のあるものとするためには、これら強力な「カンフル剤」による取組とともに、国を挙げて持続性を有し、発展性のあるイノベーション創出のための環境を実現する、いわば「**体質強化**」とも呼ぶべき「イノベーション創出のための環境整備」を同時に進める必要がある。

1. イノベーション・エコシステムの実現に向けた3つの視点

イノベーションの要は「人」である。その「人」が「資金」と「仕組み」に支えられ、相互作用を起こす中で、新しいアイデアにチャレンジし、切磋琢磨する過程を経てイノベーションは生まれ、結実する。そのことから、イノベーションを育む環境は「生態系(エコシステム)」に例えられる。今後、我が国は国家戦略として、絶え間ないイノベーションの連鎖を生み出すイノベーション・エコシステムの実現に取り組むべきであり、その際、特に以下の3つの視点が重要と考える。

【視点1】オールジャパンの視点での全体最適

我が国では、これまでもイノベーションの創出に向けて関連府省が多種多様な施策を打ち出してきた。しかし、目指すべきイノベーション・エコシステムの全体像が組織の枠を超えて共有されることなく、個別の施策の目標達成に主眼が置かれてきたことから、施策の効果は限定的なものとなり、部分最適の成果の積み上げに留まるなど、投入された資源がイノベーション創出の環境整備に効果的に活用されてきたとは言いがたい。

また、これまでは、各府省が各々所管する分野や機関(企業、大学、公的研究機関など)といった対象主体毎に施策を展開するアプローチが中心となり、それらの分野・機関の間を行き来する人や資金、それを支える制度枠組といった、横断的なアプローチには、十分踏み込めていなかった。

今後は、目指すべきイノベーション・エコシステムの姿を共有し、オールジャパンの視点から、施策の位置付けや政策手段の妥当性などを確認し、全体最適を実現する政策運営を目指す。

< 検討の方向性 >

目指すべきイノベーション・エコシステムの全体像や目標の共有
イノベーションを支える「人」、「資金」、「仕組み」の各面を通じた全体最適
イノベーション・エコシステムを構成する組織体(企業、民間組織、大学、公的研究機関、政府など)の補完性を最大限に活かす連携の促進

【視点2】時間軸を意識した政策展開

イノベーション創出のための環境整備の取組は、それが根付き、効果が実感されるまでにしばし時間を要し、またその効果を客観的に検証することが難しい。他方、産業の国際競争力強化や地域の抱える課題への対応など、早期に解決すべき課題が山積することから、短期決戦型の政策運営、効果の可視化が比較的容易な施策が優先されてきた。

今後は、人材育成や成果の実用化に時間を要する基礎研究の振興など、中長期的視点で産業の国際競争力強化等に寄与する課題への対応と、制度的な隘路の解消等によって比較的短期に成果が期待できる課題への対応とを適切に組み合わせるなど、時間軸を意識し、バランス感を持った政策運営を目指す。

< 検討の方向性 >

時間軸を意識した施策のポートフォリオ
成果指標(アウトプット、アウトカム、インパクト)の開発
特区制度など社会実験の有効活用

【視点3】国際競争と国際協調のバランス

科学技術イノベーション政策では、熾烈な国際競争に打ち勝つことのできる経済面でのフロントランナーであり続けるとともに、地球環境問題等世界が直面する地球規模の課題の解決を国際協調の下で主導することも重要である。

グローバル化した世界の中で、「課題先進国」を強みとし、世界から見て魅力的な環境へと変身する、逆転の発想が必要である。内向きで狭隘な姿勢に陥ることなく、オープンな視点を常に持ち合わせ、戦略的に国際競争と国際協調のバランスを取っていくことが必要である。

< 検討の方向性 >

競争と協調を考慮した戦略に基づく施策展開(知的財産、国際標準化、規制・制度改革など)
我が国が優れた知の結節点となるような研究開発のグローバル展開や拠点化

2. 世界一のイノベーション・エコシステムの確立に向けて

我が国が目指すのは、多様な主体が連動することにより、絶え間なくイノベーションの連鎖が起こり、それにより経済的、社会的価値が生み出され、豊かさを国民が享受していくという状況であり、それを可能にするイノベーション・エコシステムを追求する。

これに向けた優先課題として下記の3点について早急に取り組むべきと考える。

若手・女性など多様な人材が、国籍、既存の枠にとらわれることなく、創造性を遺憾なく発揮し、チャレンジする機会を持つ

知の源泉たる人の流動性が担保され、またそれを下支えする資金が円滑に循環している

自前主義からの脱却などかつての成功体験に拘泥することなく、イノベーションによる社会変革を受容・適応する価値体系が浸透している

これらの優先課題を克服しイノベーション・エコシステムを実現することにより、日本は世界規模の人・資金の循環の結節点、イノベーションの発信源となり、更には地球規模課題の解決を主導していく国として世界をリードしていくものと確信する。

今後、総合科学技術会議において、前述の3つの視点を踏まえ、これら3つの優先課題を克服した世界トップクラスのイノベーション・エコシステムの構築に向けて、政策パッケージを取りまとめ、来年の科学技術イノベーション総合戦略の改定に反映すべきである。

以上